

令和2年度自然科学研究機構基礎生物学研究所「メダカ」バイオリソース
運営委員会（第1回）議事要旨

- 日時 : 令和2年12月7日（月）10時00分～11時55分
- 場所 : 各自の研究室等（zoomによるweb会議）
- 委員 : 木下[委員長]（京都大学）、成瀬[副委員長]（基礎生物学研究所）、松田（宇都宮大学）、明石（宮崎大学）、岡本（理化学研究所）、高田（基礎生物学研究所）、東島（基礎生物学研究所）、藤森（基礎生物学研究所）、亀井（基礎生物学研究所）、武田（東京大学）、井口（横浜市立大学）、竹内（東北大学）、荻野（広島大学）、吉村（名古屋大学）、尾田（東京大学）、川本（国立遺伝学研究所）、出口（産業技術総合研究所）、竹花（長浜バイオ大学）、田中（名古屋大学）、〔敬称略〕
- オブザーバー : 寺井（新潟大学）、大久保（東京大学）、山平（琉球大学）、渡辺（基礎生物学研究所）、村田（カリフォルニア大デービス校）、安齋（東北大学）、笹倉（筑波大学）〔敬称略〕
- 陪席者 : 高山（日本医療研究開発機構）、藤井（日本医療研究開発機構）、笹土（日本医療研究開発機構）、鈴木（NBRP 広報室）、金子（基礎生物学研究所）、鈴木（基礎生物学研究所）、糸（岡崎統合事務センター）、増本（岡崎統合事務センター）〔敬称略〕

1. 報告事項

(1) 令和2年度代表機関（基礎生物学研究所）活動報告について

報告に先立ち、成瀬委員から、資料1の1ページ目「メダカ（分譲）」のグラフ上の数値（目標値）について誤記があったため、以下のとおり修正されたいとの申し出があった。

【誤】

2019 360 (310+50)
2020(10月末)

【正】

2019 351 (310+41)
2020(10月末) 362 (320+42)

引き続き、成瀬委員から、資料1に基づき、基礎生物学研究所における令和2年度活動実績（収集、保存、提供、広報及びその他の活動並びに予算執行状況）について

報告があった。

(2) 令和2年度分担機関（宇都宮大学）活動報告について

松田委員から、資料2に基づき、宇都宮大学における令和2年度活動実績（提供状況、場所の整備状況、予算執行状況及び実施体制等）について報告があった。

(3) 令和2年度分担機関（宮崎大学）活動報告について

明石委員から、資料3に基づき、宮崎大学における令和2年度活動実績（DNAリソースの受入れ、バックアップ状況及びその他の活動状況等）について報告があった。

(4) メダカ将来計画WG報告について

木下委員から、以下のとおり、令和2年度におけるメダカ将来計画WGの活動について報告があった。

①Slack（チームコミュニケーションツール）を立ち上げ、WGメンバー間での意見交換を開始した。

②NBRP「メダカ」バイオリソースの将来計画の方向性について、ブレインストーミング形式での議論を行っている。

③ゲノムの整理についても意見交換を行っている。

④第5期NBRP事業（令和4年度～令和8年度）の方向性等について、現時点ではWGとしての結論は出ていないが、本年度末までには取りまとめて本運営委員会へ報告することとしたい。

2. 審議事項

(1) 令和3年度代表機関（基礎生物学研究所）活動計画について

成瀬委員から、資料4に基づき、基礎生物学研究所における令和3年度の活動計画について提案があり、審議の結果、これを承認した。

(2) 令和3年度分担機関（宇都宮大学）活動計画について

松田委員から、資料5に基づき、宇都宮大学における令和3年度の活動計画について提案があり、審議の結果、これを承認した。

(3) 令和3年度分担機関（宮崎大学）活動計画について

明石委員から、資料6に基づき、宮崎大学における令和3年度の活動計画について提案があり、審議の結果、これを承認した。

3. その他

(1) 運営委員会の開催方法について

木下委員長から、「運営委員会の開催方法をweb会議方式に切り替えることで、費用・時間の有効活用が可能となるとともに、臨時の開催も容易となることが期待できるため、今後の開催にあたってはweb会議方式を基本とし、従前のような対面方式での開催は、その必要性が特に高い場合にのみ例外的に行うこととしてはどうか」との

提案があり、種々意見交換を行った結果、後日、メール審議を行った上で決定することとした。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大の影響下における広報の在り方について

成瀬委員から、「新型コロナウイルス感染拡大の影響下における広報の在り方について意見交換を行いたい」との申し出があり、種々意見交換を行った。

<主な意見>

- ・オンライン開催となった学会において、NBRP 事業のオンライン展示を実施したが、訪問者が極めて僅少であったため、有効な広報の在り方について検討する必要がある。
- ・費用対効果を考えると、既存の学会でオンライン展示を行うより、ウェビナー等を活用して独自に実施したほうが効果的なのではないか。
- ・オンライン開催での学会では、参加者が突然キャンセルすることについての抵抗感が少なくなるため、独自に実施したほうが効果的だと思われる。
- ・NBRP 事業をどれだけ知ってもらえるかが大事である。色々な方策を一つずつ試していくことが望ましい。

以 上